



令和3年2月



両讚寺  
恵心寺

発行 〒610-0343  
京都府京田辺市  
大住八河原九  
宿谷真治  
電話 0774-62-3137

# 「両讚寺 薬師如来の考察（壺について）」

昨年十月より、両讚寺 秘仏の薬師如来について解説を行っております。

薬師如来のお姿で一番特徴的と言えるのが、左手に壺を持つてらっしゃることでしょう。

その「壺」は薬器とも言われており、その中には「阿伽陀（あかだ）」と言われる霊薬が入っているとされます。

この「阿伽陀」は全ての病気を治すことが出来る万能薬と言われています。

十二月の寺報でお伝え致しましたが、薬師如来は仏になる前に十二の誓願を建て、それを成し遂げられました。

その中でも七番目は有名で、「除病安楽（人々の病気を退けること）」という誓願でした。

その為、多くの人々が病氣平癒の為に薬師如来を信仰してきました。

古くは天武天皇が、皇后の病氣平癒を祈願して薬師寺の建立をされたという例もあります。

つまり、「病氣平癒」のご利益の象徴として薬師如来が持ちこたえられているのが「阿伽陀（万能薬）」の入った壺であります。

その為か両讚寺の薬師如来も左手に「薬壺」を持つてらっしゃいます。

しかし興味深いのが、両讚寺の薬師如来の薬壺は「後世の作」であると文化財調査にてわかったことです。

つまり両讚寺の薬師如来は平安初期の仏様ですが、手だけ

後で薬壺を持つ手に変えられた跡があるということです。薬師如来が病氣平癒の仏様としての信仰が特に広がったのは、江戸時代頃とされています。

どの時代に手が変わられたかということは不明であり、また、今の手に変えられる前はどのような手をされていたかというのも不明です。

京都にある「東寺」の薬師如来は薬壺を持っていません。東寺を建立した空海は、「地鎮国家」の寺として、その本尊である薬師如来にも「地鎮国家」の願いを込めたと言われています。

両讚寺の薬師如来は、もと月読神社の境内にあった福養寺の本尊でした。

月読神社は、大住の一族の氏神であります。

代々、朝廷の警護を務めてきた大住の一族、その一族を守る

薬師如来でありました。

そのことから、この薬師如来は、「病氣平癒」のご利益というより、大住隼人達とともに朝廷を守る「地鎮国家」としての役割を持った仏様であったと考えても不思議ではありません。

両讚寺の薬師如来が、昔から「日照り凶作の年に雨乞い」の儀式をする仏様であったということも、大住に大嘗料という特別な土地があることと関係していると考えられます。

つまり朝廷の大嘗会の為の費用の糧となる領田がある土地の仏様ですので、凶作とならないように、雨乞いの役割もあるとされたのはないでしょうか。

そう考えると、個人や村の範囲だけでなく、国家という大きな枠組みで「地鎮国家」、「病氣平癒」を担った仏様であったのかもしれない。